

学校関係者評価委員会

2019年度第2回委員会 議事録

1. 日時および場所

日 時：2020（令和元）年2月5日（水） 18：00～20：00

場 所：修成建設専門学校 146 教室

2. 出席者（順不同、敬称略）

委員

丸山 徹、奥田 祐司、相賀 勝、藤田 晴樹、大槻 憲章、田中 文雄、大和 正（計7名）

学校（オブザーバー）

山下裕貴（理事長）、堤下隆司（校長）、見邨佳朗（副校長・建築CGデザイン学科科長）、谷川博康（学生相談室室長）、増田和浩（建築科科長）、鍵谷啓太（空間デザイン学科科長）、釜友知與子（専科科長）、樋下昌俊（住環境リノベーション学科科長）、野瀬孝男（土木工学・建設エンジニア学科科長）、明石祥子（ガーデンデザイン学科科長）、亀井哲男（事務局長）（計11名）

（参加者合計18名）

3. 配布資料

資料1-1：2019年度第2回委員会 議事次第

資料1-2：委員一覧

資料1-3：2019年度卒業生意見交換会議事録

資料1-4：2018年度学校関係者評価委員会評価報告書(案)

4. 議事次第

(1) 開会挨拶

堤下校長の挨拶、藤田委員長の開会挨拶に続いて、山下理事長より挨拶がなされた。

(2) 議事内容説明

堤下校長から本日の議事内容について概要説明が行われた。

(3) 議 案

1) 2018年度学校関係者評価委員会評価報告書(案)について

2018年度学校関係者評価委員会評価報告書(案)（資料1-4）についてその内容が承認され、委員会より修成建設専門学校に報告書が提出された。

2) 委員会からの補足意見

- ・前年と同様に、全体として高い評価を得ることができている。
- ・基準10（社会貢献）において評価が低くなっているが、カリキュラム上、ボランティア活動への参加は難しいが、市区の活動に参加するなど地域貢献活動を積極的に行っていることから、もっと高い評価でもよいのではないか。今後も、防災を含め地域活動への貢献

というかたちで社会貢献を続けていってもらいたい。

(4) 各学科 2019 年度評価報告

1) 2019 年度卒業生意見交換会議事録について

谷川委員より 2019 年 11 月 30 日に開催された卒業生対象意見交換会（資料 1-3）の議事録について報告がなされた。

2) 各学科 2019 年度評価報告

各学科長より 2019 年度課程修了の評価報告がなされた。

① 建築学科（昼夜）：増田委員

建築学科は、建築をトータルに学ぶことを目的として、設計・施工・積算の 3 本柱を設定し、オールラウンドな建設技術者の育成を目標に教育を行っている。また今年度は、卒業設計のコースを増やすことで、意匠設計コース、構造コース、木造コース、BIM デザインコース、施工管理コース、基本設計コース、景観・まちづくりコースの 7 つから自己選択させ、指導を行った。卒業展ではその成果をご覧いただき、ぜひご意見を頂戴したい。次年度以降は、施工分野を強化していきたいと考えている。

② 建築 CG デザイン学科：見邨委員

建築 CG デザイン学科では、CAD から BIM への移行に連動して、新しいデジタル技術の導入を進めている。卒業設計においても CG 学科らしい「動きのある作品」が多く出品され、昨年以上に質の高いものとなっている。設計系志望者に対してはポートフォリオ作成に力を入れ、3D・4D といった CG デザイン学科らしい卒業設計に向けて、1 年生から前倒しで着手するようにしている。また、「丸亀お城まつり」においては、「デジタル似顔絵スケッチ」を香川県建築士会と協賛して参加するなど、学外での連携もすすめている。

③ 空間デザイン学科：鍵谷委員

空間デザイン学科では、考える力・形にする力・人に伝える力を養うことを目的に、自分で考え、自ら表現し、プレゼンを行うなど、さまざまな科目と連携しながらデザイナー育成に注力している。また、社会との接点を重視し、業界とも連携しながら多角的に学んでいけるよう努めている。次年度は、産学連携・官学連携を強力に推し進めるとともに、1 年生・2 年生の合同授業の機会を増やすことで、縦のつながりによる学びを強化していきたい。また、インテリア系の資格取得を重視し、1 年生からその対策に取り組んでいく予定である。

④ 専科 2 級建築士科：釜友委員

専科 2 級建築士科は二級建築士の合格を目指す学科である。本年度は、学科試験対策においては、出来るようになるまで指導する方式で科目の足切り点での不合格者を減らすことができた。また、製図試験対策においては、専任教員に加え、製図講師を導入することで添削の待ち時間を少なくし、学生一人当たりの指導時間を増やして指導したが、本試験の想定外条件で時間内に仕上げるのがやっとの学生が多く、減点の多い図面になってしまった。次年度は本年度の反省を活かし、想定外条件でも減点の少ない図面作成で合格率向上に努めたい。試験後の授業はスキルアップ講座として、見学会や体験

講座、建築積算士資格試験対策などを行った。

⑤ 住環境リノベーション学科：樋下委員

1年生は、富士教育訓練センターでの1週間にわたる宿泊研修を事故や大きな怪我なく修了した。2年生については、卒業設計課題は全員提出済みである。目標資格とする2級建築施工管理技術検定（学科試験）は多くの合格者を輩出できたが、引き続き合格率100%を目指す。また、キャタピラー教習所による技能講習及び特別教育も全員受講済みである。その他資格取得として、宅地建物取引士、3級左官技能検定、CAD検定3級などの合格者もあった。2年生は全員の進路が決定し、その内訳は内部進学（専科2級建築士科）、施工管理職、大工職、大学編入となっている。

⑥ 土木工学科・建設エンジニア学科：野瀬委員

土木工学科・建設エンジニア学科とも、2年生はほぼ進路が決定している。進路先は、公務員をはじめとして就職が大半を占め、なかには大学編入や服飾専門学校への進学者もいる。1年生は、合同企業説明会やインターンシップに参加予定。資格取得については、ビジネス能力検定を今年度から必修化した。また、ドローンフライトオペレータ講習を2日間実施し、国土交通省認定操縦技能証明証を取得した。2級土木施工管理技術検定（学科）は、全国を上回る合格率となっており、さらに1年生でありながら1級土木施工管理技術検定に合格する学生もあった。

⑦ ガーデンデザイン学科：明石委員

G科教育目標の国家資格取得について、2級造園施工管理学科試験は、全国を遙かに上回る合格率となっている。今年度より1年生を対象に3級造園技能検定資格取得を必須とし、全員が合格することができた。その他、新たな取り組みとして、これまで卒業課題であった卒業設計を設計コース・施工コースより選択制を採用した卒業制作に改め、学生の目指す職種に見合った課題設定を行ったことで、モチベーションが上がり、学ぶ意欲に繋がった。今後課題設定をより意義あるものにすべく、授業運営においても教員の更なる連携、卒業生の協力を得ながらその都度改善していく。また、学外における産・官・民連携した取り組みを通して、引き続き地域貢献にも力を入れていく。

3) その他

① 質疑応答

公務員希望者は多いのか。

本年度は土木工学科から大阪府へ1名採用が決まっている。10年以上前までは、国家公務員を含め相当数いたが、ここ近年は少なくなっている。募集案内や試験対策も進めているが、希望者は多くない。公務員は採用選考の日程が遅く、一般就職とのバランスがとりづらいのも一因と考えられる。

資格取得について。

今年度は、まずは資格試験に挑戦することを目標に取り組んだ結果、前年に比べ約1.5倍の受験数を得ることができた。資格試験への受験機会を広げ、成功体験を積み重ねることで学習意欲を高めていきたい狙いである。さらに上位資格へのチャレンジへとスキルアップにつなげていきたい。

除籍と退学の違いは何か。

除籍は、学籍からその身分を抹消する懲戒規定で、校納金の滞納など成業の見込みがない場合に行われる。他方、退学は自己都合によるもので、疾病その他やむを得ない事由により退学を認めるものをいう。本年度も、健康上の理由や進路変更による退学者があったが、本校に入学してくれた学生一人ひとりを大切に、全員が進級・卒業していけるよう支援していきたい。

②堤下校長より

□「卒業展 2020」について

2年生が取り組んだ卒業設計の中から、グランプリ、準グランプリ受賞作品をはじめ、コース賞、奨励賞など優秀な作品を、2020年2月16日・17日に北堀江にある「修成堀江ラボ」にて展示、表彰する。

□「修成建設専門学校 創立 110 周年記念事業」について

建築の世界で活躍されている著名人に、それぞれの視点から「建築に未来」について語っていただく全6回シリーズの講演会で、今回は第3回となる。2020年3月14日、講演「インフラから地域を眺めてみよう（八馬智氏）」の案内を行った。

以上

（記録・文責：谷川博康、藤本喜代志）